

北-田畑エリア座談会（1回目まとめ）

1 実施日時

令和5年10月31日（火） 18:00~20:00

2 参加者

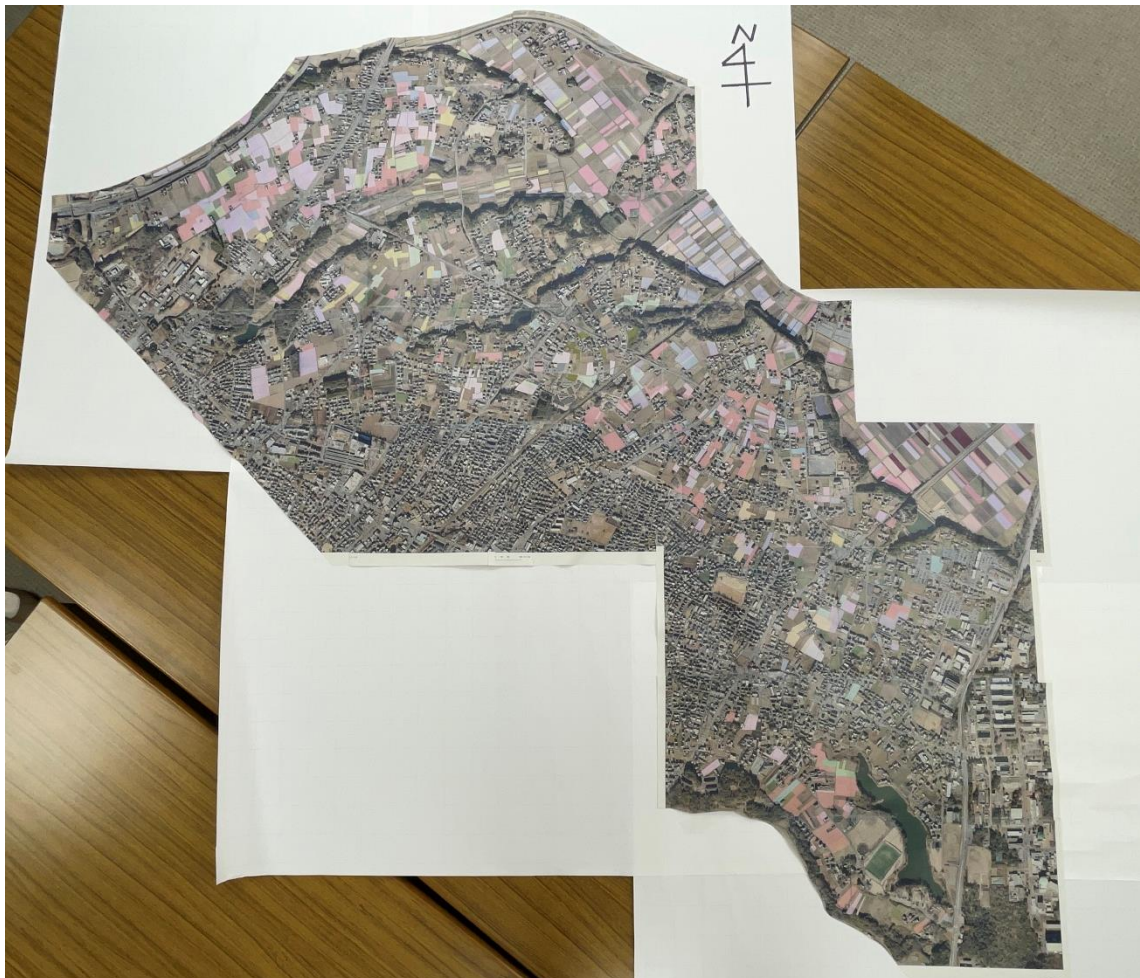
ほしいも生産組合関係者，JA各生産部会関係者，エリアの耕作者及び中心的担い手，東海村農業委員，農地利用最適化推進委員，JA職員，東海村職員（事務局）

計23名

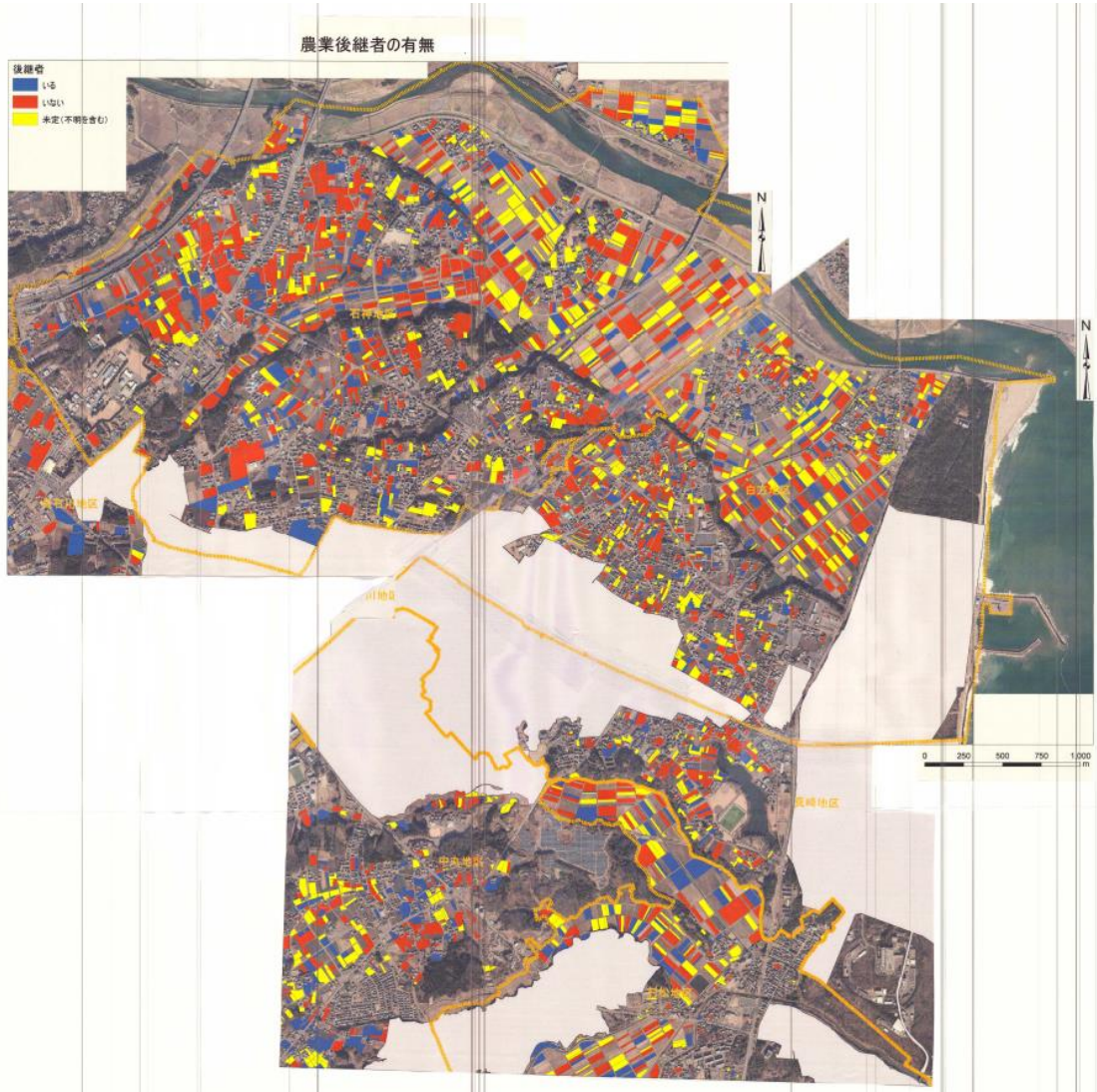
3 内容

（1）現状地図

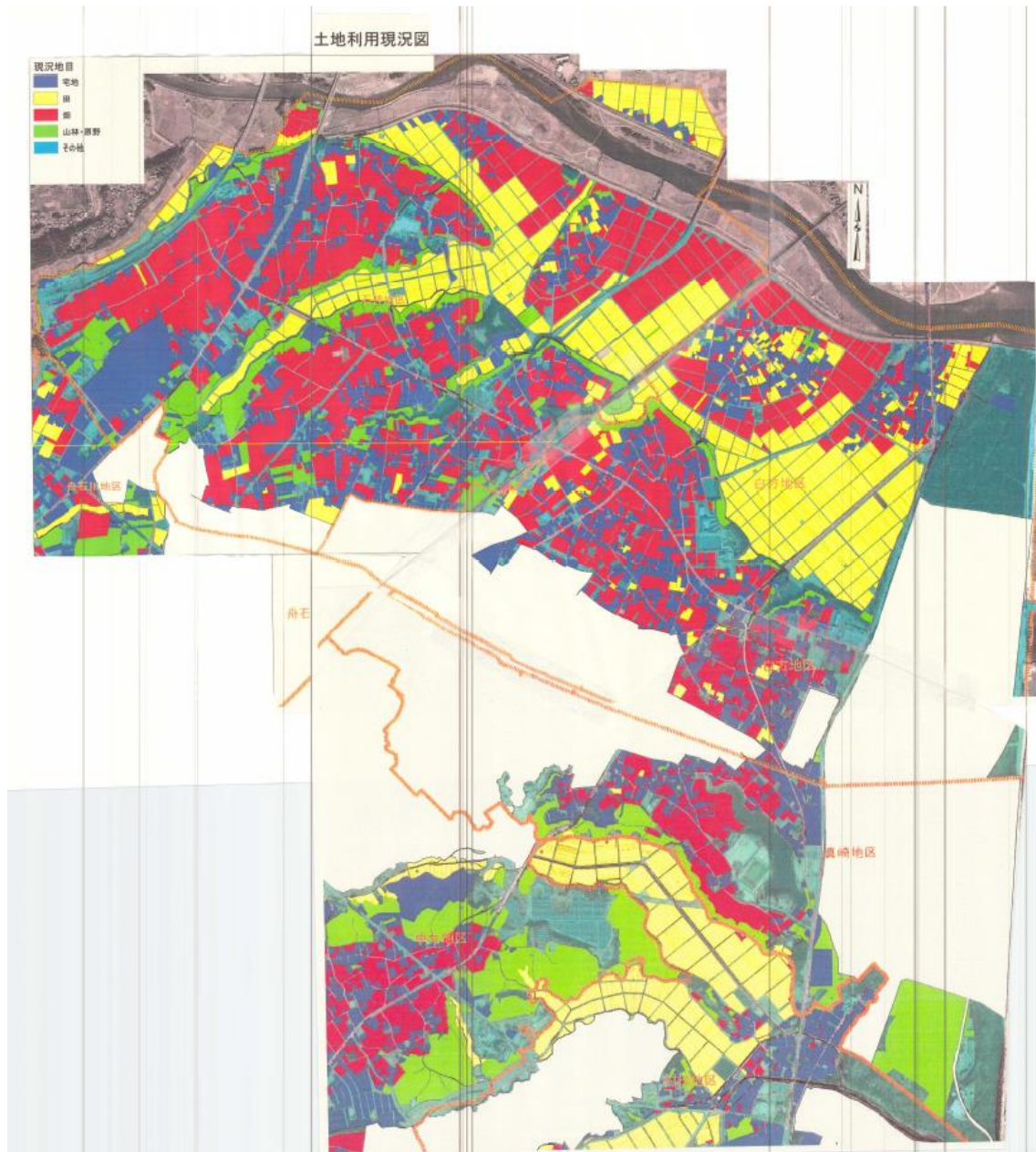
- ・耕作者別



・ 後継者の有無別



・ 現状地目別



(1) 地域農業の現状及び課題

<参加者からの意見>

- ・畑の耕作放棄地は少ない。
- ・畑の場合、田と違い、土地所有者の意向が将来の耕作に大きく関係する。
- ・集約、集積は必要だが、関わる人々の関係性の問題から、簡単にはいかない。
- ・村内の農業者の情報の周知が必要。
- ・村内でも畑の土質が異なり、土地に合った作物作りが必要。
- ・農業自体が儲からない。

<まとめ>

- ・畑を耕作する人や後継者はある程度いるが、地権者との関係性で、長く土地を賃借し、耕作し続けられるか課題がある。
- ・村内の農業者の情報不足や農業関係者同士のネットワークが希薄である。
- ・農地の条件（土質や場所、大きさ等）により、作物の種類や耕作できる人が限られる。

(2) 課題解決に向けた意見

<参加者からの意見>

- ・農業者の繋がりを作る取組みの実施。（定期的な座談会や意見交換会等。）
- ・耕作する作物ごとにエリアを分け、地域農業の将来像を検討する。
- ・若者や女性に農業に参画してもらう施策を検討する。
- ・圃場間の堺木を撤廃することや農機具が侵入しやすい道路にするなど、農業環境を整える。
- ・ブランド作物の検討、野菜工場等の誘致の検討。
- ・大きな区画で耕作しているエリアでは、大きい法人に集約していく。

<まとめ>

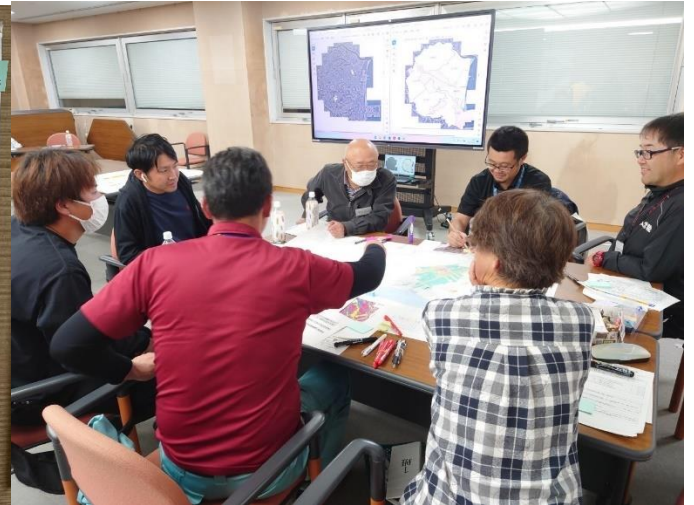
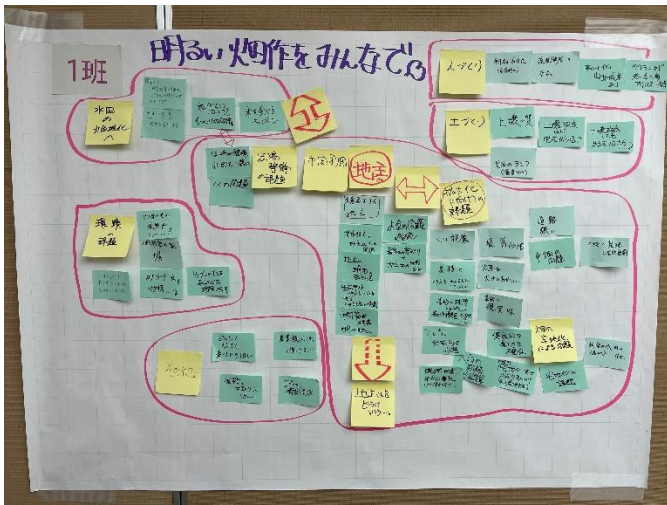
- ・定期的な座談会や意見交換会を実施することや農業者の情報共有を図り、農業者同士のネットワークを強化し、スムーズな農地の貸し借りや集約、集積に繋げていく。
- ・農地の環境整備。（進入路、境木、区画等の整備。）
- ・耕作規模や作物ごとにエリアを分けることにより、効率的な農地の活用を検討していく。

(3) 次回の話し合い時に実施すること（案）

- ・1回目の話し合い結果のまとめを参加者間で共有し、行政、農業者、地域、JA、土地改良区、農業委員会等、それぞれの機関ができることを洗い出し、課題解決プランを検討する。
- ・行政は、農地の集約や後継者等への支援に関する制度概要を整理し、参加者へ情報提供する。
- ・具体的な担い手についての目標地図の素案を作成する。

【座談会の様子】

< 1班 >



● 班内で出た意見まとめ ●

- ・ 今後、農地の集積、集約は必須。
- ・ 農地面積を拡大するにも、境界に塚木があり、作業の生産性が落ちてしまう等の課題がある。
- ・ 境界の課題を解決しないと集約したところで意味がない。安心して作業できるように行政にも協力してもらわないといけない。
- ・ 畑のまわりの道路の整備も必要。
- ・ 田と違い、畑の場合は地主の問題も大きい。
- ・ 白方地区には畑の後継者が多い。
- ・ 現状、田んぼの場合は地主も耕作してほしいと思っている方が多いが、畑は、地主の代替わりにより、方針が変わってしまうことがある。
- ・ 現状では地主の意見が強く、畑によって小作料が違う等もある。
- ・ 畑の土質も違うこと等から、一気に同じ条件にするのは難しい。
- ・ 東海村では今のところ畑の耕作放棄地は少ない。地主さんとの交渉をうまくやり、いかに同じ足並みで進めていくかが一番の問題。

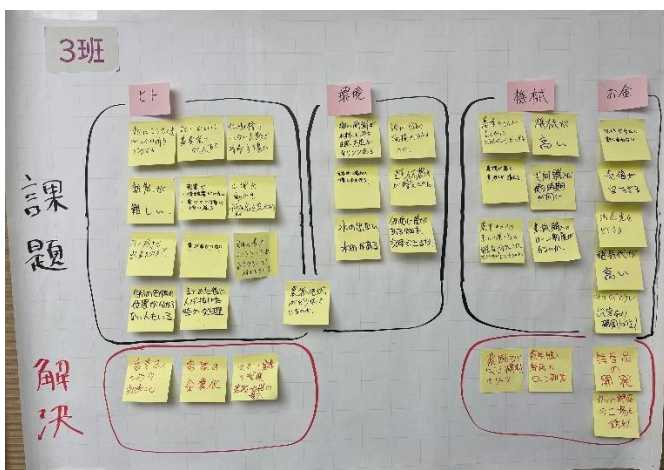
< 2班 >



●班内で出た意見まとめ●

- ・集約，集積に向けての取組みは必要だが，そこには土地ごとの状況や，関係する人々の感情，思いがあるので，地図上で単純に土地を分けていくようにはいかない。
- ・その土地に関わる地主や農家同士の繋がりを見える化していくことが必要。
- ・村内の農業者の情報が周知されていない。
- ・農家として情報発信できる方とそうでない方がいるので，座談会等の会合により，農家同士の情報共有ができることも重要。
- ・農家の情報が共有できるプラットフォームが必要。
- ・必ずしも村の職員が村内の農家がどこの圃場で何を作っているか，全てを把握しているわけではない。
- ・村内には，小さい区画で畑をたくさん持っていて，生産している方や家庭菜園，兼業農家で畑の農業を営んでいる方と，大きい圃場で大きく作っている農家とがいる。
- ・常磐線を挟んで海側と山側で畑の条件が異なる。海側は砂壤土なので，さつまいも作りに適している。山側は土が肥えていて重く，葉物等に適したエリア等の特徴がある。これらの条件などを無視して，1つにまとめようとするのは難しい。
- ・はじめから大きなエリアで耕作者等を決めていくのではなく，耕作するもので分けて話し合いを進めていくのも1つの方法としてある。
- ・現在大きい区画で耕作しているエリアでは，大きい法人等に集約して任せていくのも検討する必要がある。

< 3班 >



●班内で出た意見まとめ●

- ・後継者がいない。
- ・法人化が必要。
- ・若者や女性を農業に参画してもらおう。女性が農業に参画すれば，男性も村に集まってくるのではないか。
- ・過去に比べると遊休農地が増えてきている。
- ・農機具を共同購入することは難しい。(農作業の時期が重なるため。)
- ・農協での農機具のリースの検討。
- ・農業は儲からない。儲かるための施策(ブランド品の開発，工場の誘致等)

が必要。

- ・ 地域計画の目標地図を作るためには、まず村内で大きく農業を営んでいる方の情報を収集する必要がある。

<目標地図作成に向けての作業>

目標地図の作成に向け、各エリアでどのような担い手がいるか意見を出し合った。

